

リモートコントロールデバイス



**CUBASE LE<sub>4</sub>**

Music Production Software

Revision and Quality Control:

Cristina Bachmann, Heiko Bischoff, Sabine Pfeifer

本書の記載事項は Steinberg Media Technologies GmbH 社によって予告なしに変更されることがあり、同社は記載内容に対する責任を負いません。

本書で取り扱われているソフトウェアはライセンス契約に基づいて供与されるもので、ソフトウェアの複製はライセンス契約の範囲内でのみ許可されます (バックアップコピー)。

Steinberg Media Technologies GmbH 社の書面による承諾がない限り、目的や形式の如何にかかわらず、本書のいかなる部分も記録、複製、翻訳することは禁じられています。

本書に記載されている製品名および会社名は、すべて各社の商標、および登録商標です。

© Steinberg Media Technologies GmbH, 2007.

All rights reserved.

## 目 次

|    |                        |
|----|------------------------|
| 6  | このマニュアルについて            |
| 6  | セッティング                 |
| 7  | 操作                     |
| 8  | "Generic Remote"デバイス   |
| 10 | 対応しているリモート コントロール デバイス |
| 15 | 索引                     |

## **ミキサーのリモートコントロール**

## このマニュアルについて

様々な MIDI コントロール デバイスを使用することにより、MIDI 経由でミキサーをコントロールすることが可能です。この章では、Cubase のリモートコントロールのセットアップについて説明します。またサポートしているデバイスもリストアップしています。

- どんな MIDI コントローラからでも "Generic Remote" を設定することにより、Cubase LE のリモートコントロールも可能です。

設定方法については 8 ページの『"Generic Remote" デバイス』をご参照ください。

## セッティング

### リモート機器の接続

リモートユニットの MIDI 出力と、ご使用の MIDI インターフェイスの MIDI 入力を接続します。リモートユニットの種類にもよりますが、インターフェイスの MIDI 出力とリモートユニットの MIDI 入力を接続する必要があるかもしれません（インジケータやモーターフェーダーなどの「フィードバック機能」のためには、この接続が必要です）。

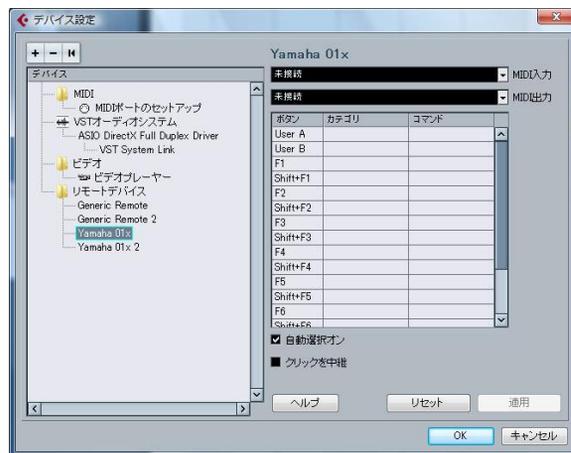
レコーディングする MIDIトラックに、リモートユニットからの MIDI データ混入を避けるために、以下のセッティングを行うべきでしょう。

1. "デバイス (Devices)" メニューから、"デバイスの設定 (Device Setup)" ダイアログを開きます。
2. 左のリストで "MIDI ポートのセットアップ (MIDI Port Setup)" を選択します。
3. 右に表示されるポートの中から、MIDI リモートユニットに接続した MIDI 入力を探します。
4. 対応する "イン 'All MIDI Inputs'" 欄のチェックボックスがチェック (「×」) されている場合、クリックして、チェックをはずし、"設定状況 (State)" 欄を "オフ (Inactive)" に設定します。
5. "OK" ボタンをクリックして "デバイス設定 (Device Setup)" ダイアログを閉じます。

これで、"All MIDI Inputs" から、リモートユニットの入力が除外されます。MIDIトラックにレコーディングできるのは、"All MIDI Inputs" の選択ポートだけであり、リモートユニットのデータが同時にレコーディングされる危険はなくなります。

### リモート機器を選択する

1. "デバイス (Devices)" メニューをプルダウンして、"デバイスの設定 (Device Setup)" を選択します。  
ダイアログが開き、ウィンドウの左側にデバイスカテゴリーと各デバイスの名称が表示されます。
2. 使用するリモート「デバイス」がリストにまだ無い場合は、左上の "+" をクリックして、表示されるポップアップから該当のデバイスを選択します。  
選択されたデバイスが "デバイス (Devices)" リストに追加されます。
- 同じタイプのリモート デバイスを、複数選択できます。  
複数にした場合、"デバイス (Devices)" リストのデバイス名称に、番号が付されます。
3. 次に "デバイス (Devices)" リストから該当のモデルの MIDI リモート デバイスを選択します。  
選択したデバイスによって、プログラム可能なコマンドのリスト、または何の表示も無いパネルが、ダイアログの右側に現われます。



リモート機器に Yamaha 01x を選択

4. "MIDI 入力 (MIDI Input)" ポップアップメニューから、リモート機器からの MIDI 入力を選択します。  
"MIDI 出力 (MIDI Output)" ポップアップメニューからリモート機器への MIDI 出力も、必要ならば選択します。
5. "OK" ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。  
これで、外部の MIDI リモート機器を使って、フェーダーやノブを操作したり、ソロ / ミュートを切り換えられます。パラメータの構成は、使用するリモート機器によって異なります。

⚠ Cubase とリモート コントロール デバイス間の通信が中断したり、ハンドシェーキングプロトコルが接続に失敗することがあります。"デバイス (Devices)" リストにあるデバイスとの通信を再開するには、そのデバイスを選択し、"デバイス設定 (Device Setup)" ダイアログの "リセット (Reset)" ボタンをクリックしてください。またダイアログの左上 ("+" ボタンの右隣) にある "すべてのデバイスにリセットメッセージを送信 (Send Reset Message to all Devices)" ボタンは、"デバイス (Devices)" リストにあるすべてのデバイスをリセットします。

## 操作

### リモート コントロールを使ってオートメーションを書き込む

ミキサーを、リモート コントロール機器を使ってオートメーション化する手順は、オートメーションを書き込みモードにした上で、ウィンドウ上の各コントロールをマウスで操作する場合と同じです。ただし、既存のオートメーション データと「置き換える」操作については、重要な違いが1つあります。

- (W) 機能をオンにして、リモート機器のコントロールを動かすと、対応するパラメータに関する全てのデータが、コントロールを動かしたポジションからプレイバックが停止したポジションまで、置き換えられます。

いかにえれば、書き込みモードでコントロールを動かすと、その時点からプレイバックを停止する時点まで、そのコントロールが「アクティブ」のままになります。この理由は後ほど説明します。

この点を考慮して、より慎重な操作が必要となります。

- データを置き換えたいコントロールだけが動かさないように、確実な操作をしてください。

あるコントロールに対する既存のオートメーション データを置き換えるには、ユーザーがコントロールを実際に「つかんでいた」、つまり動かした時間 (経過) をコンピュータに把握させる必要があります。この操作を「画面上」で行う場合は、マウスボタンが押された時点 - 放した時点 ... の2点を Cubase LE に検出させるだけで済みます。

ところが、外部リモート機器を使用する場合は、マウスボタンは関係ありません。また、ユーザーがいつフェーダーを「つかんで動かした」のか、あるいは「動かして放しただけ」なのかは、Cubase LE は把握できません。このため、プレイバックを停止することによって、コントロールを「放した」ことを知らせる必要があります。

⚠ 以上は、リモート コントロール デバイスを使用していて、ミキサーで (W) ボタンがオンになっている場合にのみ該当します。

## リモート キー コマンドを割り当てる

サポートされているリモート機器の一部は、Cubase の任意の機能 (キー コマンドの割り当てが可能なもの) を、ボタン、ホイール、その他のコントローラに割り当てることができます。割り当てが可能なものは、以下のデバイスです。

- Tascam US-428
- Yamaha 01x
- Yamaha DM 2000v2
- Yamaha DM 1000v2
- Steinberg Houston

手順は以下の通りです。

1. "デバイス設定 (Device Setup)" ダイアログを開き、この機能をサポートしているリモート機器を1つ選択します。  
ウィンドウの右側に3つのコラムが表示されます。ここでコマンドの割り当てを行います。
2. "ボタン (Button)" コラムで、リモート機器のコントロールやボタンのうち、割り当てたい Cubase LE の機能を見つけます。
3. 該当するコントロールの "カテゴリ (Category)" コラムをクリックして現れるポップアップメニューから、Cubase LE 機能の「カテゴリ」をどれか選択します。
4. "コマンド (Command)" コラムをクリックして現れるポップアップメニューから、希望する Cubase LE 機能を選択します。  
ポップアップメニューに用意されている項目は、選択したカテゴリによって異なります。
5. "適用 (Apply)" ボタンをクリックします。

これで、選択した機能が、リモート機器のボタンやコントロールに割り当てられます。

## MIDIトラックをリモートコントロールする際の注意

ほとんどのリモート機器は、Cubase LE 上のオーディオと MIDI の、両方のチャンネルのリモート コントロールに対応できますが、実際には、パラメータの設定がそれぞれに必要なようになるでしょう。たとえば、オーディオ関連のコントロール (EQ など) は、MIDI チャンネルのコントロールにおいては無視される場合もあります。

## "Generic Remote" デバイス

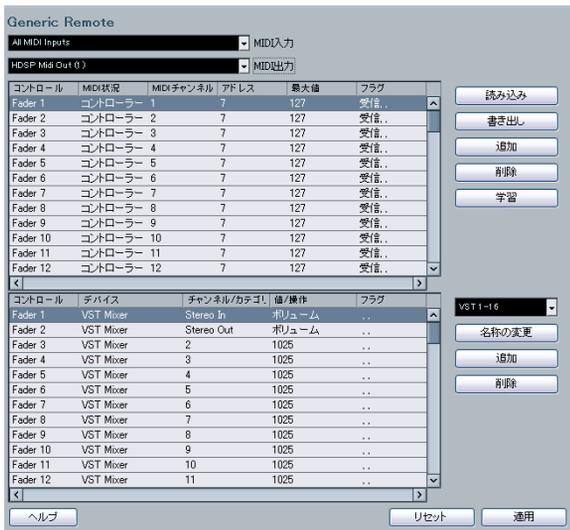
Cubase LE が直接的なサポートをしていない、その他のモデルの MIDI リモート機器がある場合、"Generic Remote" デバイスを選択し、セットアップすることにより、Cubase LE のリモート コントロールとして使用できます。

1. "デバイス (Devices)" メニューの "デバイスの設定 (Device Setup)" ダイアログを開きます。  
"デバイス (Devices)" リストにまだ "Generic Remote" デバイスがいない場合は、追加する必要があります。
2. 左上の "+" マークをクリックし、ポップアップメニューから "Generic Remote" デバイスを選択します。
  - "デバイス設定 (Device Setup)" ダイアログに "Generic Remote" が追加されている場合、"デバイス (Devices)" メニューから "Generic Remote" を選択するとステータスウィンドウを表示させることができます。



Generic Remote ステータスウィンドウ

3. 左の "デバイス (Devices)" リストで、"Generic Remote" デバイスを選択します。  
"Generic Remote" のセットアップウィンドウが表示され、ここでリモート機器のどのコントロールで、Cubase LE のどのパラメータを制御するか、特定できます。



4. "MIDI 入力 (MIDI Input)"/"MIDI 出力 (MIDI Output)" ポップアップメニューで、リモート デバイスが接続されている MIDI 入出力ポートを選択します。
5. 「バンク」とはいくつかのチャンネルを組み合わせたもので、ほとんどの MIDI 機器において、ごく限られたチャンネル数 (多くの場合 8 または 16 チャンネル) しか同時に制御できないために使用されます。たとえば、MIDI リモート機器に 16 個のボリュームフェーダーが用意されているが、Cubase LE 上では 32 の VST ミキサーチャンネルを使用している場合、16 チャンネルずつの「2 つのバンク」が必要です (16 × 2 = 32)。第 1 のバンクが選択された場合は、ミキサーチャンネル 1 ~ 16 を制御し、第 2 バンクが選択された場合は、ミキサーチャンネル 17 ~ 32 を制御します。同様にトランスポート機能も制御できるので、複数のバンクを使うことができます。
6. MIDI リモート機器のコントロールにしたがって、リモートの割り当てをセットアップします。

各コラムに、以下の機能があります。

| コラム                         | 説明   |
|-----------------------------|--|
| "コントロール (Control Name)"     | このフィールドをダブルクリックすると、コントロールに対して名称を入力できます (通常はコントロールに書かれている名称を入力します)。この名称は下側の表の "コントロール (Control Name)" コラムに、自動的に反映されます。  |
| "MIDI 状況 (MIDI Status)"     | このコラムをクリックしてポップアップメニューをプルダウンし、リモート機器のコントロールから出力される (Cubase LE が受信する) MIDI メッセージタイプを特定します - "コントローラ (Controller)", "プログラムチェンジ (Program Change)", "ノートオン (Note On)", "ノートオフ (Note Off)", "アフタータッチ (Aftertouch)", "ポリプレッシャー (Poly Pressure)" から選択します。 |
| "MIDI チャンネル (MIDI Channel)" | このコラムをクリックしてポップアップメニューを開き、リモート機器のコントロールから出力される (Cubase LE が受信する) MIDI チャンネルを選択します。   |
| "アドレス (Address)"            | CC (コンティニューアスコントローラ) ナンバーまたはノートのピッチです。   |
| "最大値 (Max. Value)"          | リモート機器のコントロールから受信するデータの最大値を設定します。MIDI コントローラの数値範囲を、プログラムパラメータの数値範囲と自動的に合わせるために使用します。   |

| コラム           | 説明  |
|---------------|---|
| "フラグ (Flags)" | このコラムをクリックしてポップアップメニューをプルダウンし、3つのフラグをオン/オフにすることができます。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>• "受信 (Receive)" - リモート機器からのMIDIメッセージを受信して処理する</li> <li>• "送信 (Transmit)" - コントロールに対応する値はCubase LE上で変更し、MIDIメッセージをリモート機器に出力する</li> <li>• "相対 (Relative)" - リモート機器のコントロールが、絶対値ではなく「回転数」を返す「エンドレスダイヤル」である場合に使用</li> </ul> |

• 上の表のコントロール数では多すぎる、あるいは少なすぎる場合、表の右側にある "追加 (Add)" / "削除 (Delete)" ボタンで、コントロール数の追加 / 削除ができます。

• リモート機器の特定のコントロールが、どんな MIDI メッセージを送信するのか、不確かな場合は、"学習 (Learn)" 機能を活用できます。上側の表のコントロールを ("コントロール (Control Name)" コラムをクリックして) 選択し、MIDI リモート機器でそれに対応するコントロールを操作してから、表の右側にある "学習 (Learn)" ボタンをクリックします。"MIDI 状況 (MIDI Status)"、"MIDI チャンネル (MIDI Channel)"、"アドレス (Address)" の各値が、リモート機器で操作したコントロールの属性 (MIDI メッセージ) に、自動的に設定されます。

#### 7. 下の表で、制御する Cubase LE パラメータを特定します。

表の各行は、上側の表の対応する各行にあるコントローラに関連付けられています ("コントロール (Control Name)" コラムに示される通りに)。他のコラムには以下の機能があります。

| コラム                             | 説明  |
|---------------------------------|---|
| "デバイス (Device)"                 | このコラムをクリックしてポップアップメニューをプルダウンします。Cubase LE上のどのデバイスを制御するか特定します。"コマンド (Command)" オプションは、リモートコントロールにより、特定のコマンド動作の実行を可能にします。例として、"リモート (Remote)"バンクの選択があります。 |
| "チャンネル/カテゴリ (Channel/Category)" | 制御するチャンネルを選択します。"コマンド (Command)" デバイスオプションが選択された場合は、"コマンド (Command)"カテゴリで選択します。   |

| コラム                   | 説明   |
|-----------------------|--|
| "値/操作 (Value/Action)" | このコラムをクリックしてポップアップメニューをプルダウンし、制御するチャンネルのパラメータを選択します (通常、VSTミキサーデバイスオプションが選択されている場合、ボリューム、パン、センドレベル、EQ などから選択することができます)。<br>"コマンド (Command)" デバイスオプションが選択されている場合、ここで各カテゴリの「動作」を特定します。 |
| "フラグ (Flags)"         | このコラムをクリックしてポップアップメニューをプルダウンし、3つのフラグをオン/オフにすることができます。  |

• "プッシュボタン (Push Button)" - 受信したMIDIコントロールメッセージが "0 (ゼロ)" 以外の値を示した場合に、変更します。

"切換 (Toggle)" - MIDIコントロールメッセージが受信されることに、最小値と最大値の2つで切り替わります。"プッシュボタン (Push Button)" と "切換 (Toggle)" の組み合わせは、ボタンの状態をラッチしないリモートコントロールに便利です。例として、"ミュート (Mute)" ボタンを押すとオンになり、"ミュート (Mute)" ボタンを放すとオフになるデバイスでの "ミュート (Mute)" ステータスの制御があります。"プッシュボタン (Push Button)" と "切換 (Toggle)" がオンになっている場合、コンソールのボタンが押される度に "ミュート (Mute)" ステータスがオン/オフに切り替わります。

• "オートメーションなし (Not Automated)" - パラメータはオートメーション化されません。

#### 8. 必要ならば、他のバンクも選択して設定を行います。

このことに関しては、上側の表は MIDI リモート機器にしたがって、すでにセットアップされているため、下側の表にのみ設定の必要があります。

• 必要ならば、バンクポップアップメニュー下にある "追加 (Add)" ボタンをクリックして、バンクを追加できます。

"名称の変更 (Rename)" ボタンをクリックすると、現在選択されているバンクに、新しいバンク名称を割り当てることができます。また、不必要なバンクを選択して "削除 (Delete)" ボタンをクリックすることで、バンクを削除できます。

## 9. 終了したら、"Device" の設定ウィンドウを閉じます。

これで、特定の Cubase LE パラメータを、MIDI リモート機器から制御できるようになります。他のバンクを選択するには、リモートステータス ウィンドウのポップアップメニューを使用します (あるいは、MIDI リモート機器に割り当ててある場合は、この機器のコントロールを使用できます)。

### リモート セットアップの読み込み / 書き出し

"Generic Remote" の設定ウィンドウの右上にある "書き出し (Export)" ボタンをクリックして、コントロール構成 (上側の表)、全てのバンクを含む、現在のセットアップを書き出すことができます。セットアップは、Windows の場合 ".xml" 拡張子の付いたファイルで保存されます。また、"読み込み (Import)" ボタンをクリックすると、保存したリモートセットアップファイルを読み込みます。

- 最後に読み込み / 書き出されたリモート セットアップは、Cubase LE プログラムのスタートアップ時、あるいは "デバイス設定 (Device Setup)" に、"Generic Remote" デバイスが追加された際に、自動的に読み込まれます。

## 対応しているリモート コントロール デバイス

以下のセクションでは、Cubase LE が対応しているリモート コントロール デバイスと、各デバイスの機能について簡単に説明します。

### Houston

Houston は、特に Cubase LE などの VST オーディオ アプリケーションと併用するために設計された、MIDI / USB リモート コントロール デバイスです。Houston はわかりやすく配置されたコントロールで (タッチセンシティブ モーター フェーダー、ロータリー ノブ、トランスポート コントロール、ジョグ / シャトル ホイールを含む)、コンピュータのキーボード、あるいはマウスを使用せずに、Cubase LE のほぼ全ての VST パラメータを制御できます。

- パラメータ、および実際のミキシング テクニックの詳細は、Houston のマニュアルをご参照ください。

### Mackie Control

Mackie Control はタッチセンスのオートフェーダーのコントロールサーフェスです。サポートするデジタル オーディオ ワークステーションに対する細部に及ぶミキシングや編集、オートメーションとナビゲーションが可能な、9 本のフェーダー (8 チャンネルとマスター) を備えた MIDI コントローラです。

Steinberg 専用のキーアサインを示す Lexan オーバーレイ シートを Mackie Control デバイスに装着して、コントローラをカスタマイズすることが可能です。

## Mackie HUI

### 仕様

Mackie HUI は、任意の数のチャンネルを 8 チャンネルずつまとめてコントロールできます。

- 左右の "Bank" ボタンを使って、チャンネル 1 ~ 8、9 ~ 16 の選択をします。
- 左右の "Channel" ボタンを使って、フェーダーのアサインを 1 チャンネルずつ段階的にずらします。
- "Auto Enable" セクションの "Fader" ボタンで、モーターのオン/オフを切り換えます。
- "Auto Enable" セクションの "Mute"、"Pan"、"Send"、"Plug In"、"Send Mute" には、現在のところ対応していません。
- "Rec/Rdy" ボタンでトラックを録音可の状態に設定できます。
- 1 つのトラックの詳細設定を行う場合は、"Select" ボタンを使用します。
- "Mute" と "Solo" ボタンで、トラックをミュート、ソロの設定を行います。
- "Default" ボタンで全てのトラックのソロを解除します。
- "Assign" ボタンで全てのトラックのミュートを解除します。
- タイムディスプレイの右、"Rude Solo Light" と表示された LED の点灯は、どこかのチャンネルがソロとなっていることを示します。
- "Insert" ボタンで、1 つのトラックの全てのインサートをバイパスにすることが可能です。

"Select Assign" セクションの "Pan" ボタン：

- フェーダー セット：左右のパンまたはフロント / リアのパン ボタンを押すごとにアサイン設定が周期的に変更されます (8 つの V-Pot でパンパラメータを調整)。
- "Select Assign" セクションの "V-Sel" ボタン：トラックのモニター

"Select Assign" セクションの "Send A" から "Send E" までのボタン：

- フェーダーセット："Send 1" のレベルから "Send 8" のレベル ("Send A" から "Send D" ボタンが "Send 1" から "Send 4" に対応し、"Send E" ボタンは "Send 5" から "Send 8" に対応：ボタンを押すごとにアサインが周期的に変更)
- "Select Assign" セクションの "V-Sel" ボタン：センドのオン / オフ スイッチ (選択されたセンドによって異なる)
- "Select Assign" セクションの "Shift" ボタン + "V-Sel" ボタン：プリ / ポスト フェーダー スイッチ (選択されたセンドによって異なる)
- "Select Assign" セクションの "SELECT ASSIGN" ディスプレイ (4 文字) は、V-Pot と "V-Sel" ボタンに対するセンドまたはパンのアサインを表示します。
- "Select" ボタンの上の 4 文字ディスプレイには、アサインされたトラックの名称が表示されます。

- "Select Assign" セクションの "Bypass" ボタンは、"Insert" ボタンのバイパス機能を示すために常に選択されます。
- "Select Assign" セクションの "Mute"、"Rec/Rdy All"、"Input"、"Output" ボタンは現在のところサポートされていません。
- "Auto" ボタンは、Cubase LE のミキサーでの "Read" と "Write" ボタンの状態をコントロールします ("Auto Mode" セクションの "Read" と "Write" ボタンの状態による)。
- "Auto Mode" セクションの "Off" ボタンを使用して、Cubase LE のミキサーでの "Read All" または "Write All" ボタンをコントロールします ("Auto Mode" セクションの "Read" と "Write" ボタンの状態による)。
- "Auto Mode" セクションの "Touch"、"Latch"、"Trim" ボタンは、現在のところサポートされていません。
- "Window" セクションの "Transport" ボタンを使用して、トランスポートパネルの開閉を行います。
- "Window" セクションの "Edit" ボタンでは、現在のプロジェクトウィンドウを画面の最前面に表示させることができます。
- "Window" セクションの "Status" ボタンを使用して、VST パフォーマンス ウィンドウを開閉できます。
- "Window" セクションの "Mix" ボタンを使用して、ミキサー ウィンドウの開閉が可能です。
- "Window" セクションの "Mem-Loc" ボタンを使用して、マーカウィンドウを開くことができます。
- "Window" セクションの "Alt" ボタンは、ユーザによって定義された機能に使用することが可能です。
- "Keyboard Shortcuts" セクションの "Undo" ボタンは、Cubase LE において行われた最後の操作をアンドウ（取り消し）します。"Shift" ボタンを押しながら "Undo" ボタンを押すと、アンドウされた操作がアンドウとなります（操作の復活、すなわちリドゥ）。
- "Keyboard Shortcuts" セクションの "Save" ボタンを押すと、現在のプロジェクトが保存されます。"Shift" ボタンを押しながら "Save" ボタンを押すと、現在のプロジェクトのバックアップ コピーが保存されます。
- "Keyboard Shortcuts" セクションの "Edit Mode"、"Edit Tool"、"Option/All"、"Ctrl/Clutch"、"Alt/Fine" ボタンは、現在のところサポートされていません。
- "Edit" セクションの "Cut"、"Copy"、"Paste"、"Delete" ボタンは、それぞれ Cubase LE で対応する機能をコントロールします。
- "Edit" セクションの "Capture" と "Separate" ボタンは、現在のところサポートされていません。
- "Status/Group" セクションのボタンは、現在のところサポートされていません。
- トランスポートの上の "In" または "Out" ボタンを使用すると、プロジェクト カーソルを左または右ロケータの位置に移動することが可能です。  
"Shift" ボタンを押しながら "In" または "Out" ボタンを使用すると、左または右ロケータを現在のプロジェクト カーソルの位置に移動します。
- "RTZ" または "END" ボタンを使用して、プロジェクト カーソルをプロジェクトの開始地点または終了地点に置くことができます。
- "Quick Punch" ボタンを押すと、オートパンチインのオン/オフを切り換えます。  
"Shift" ボタンを押しながら "Quick Punch" ボタンを押すとオートパンチアウトのオン/オフを切り換えます。
- "Loop" ボタンを押すと、サイクルモードのオン/オフを切り換えられます。
- "On Line" ボタンを押すと同期のオン/オフを切り換えます。
- "Audition"、"Pre"、"Post" ボタンはユーザによって定義される機能に用いられます（ファンクションキー "F1" から "F7" を参照）。
- Mackie HUI のプレイバック、ストップ、レコード、早送り、巻戻しの各トランスポート機能は、Cubase LE のトランスポートに対応します。
- ジョグホイールは、Cubase LE のプロジェクト カーソルの位置を移動します。
- "Scrub" と "Shuttle" ボタンは現在のところサポートされていません。
- ジョグホイールの左に位置する矢印キーを押すと、コンピュータキーボードの矢印キーを押すのと同じ動作となります。  
"Mode" ボタンが選択されている場合、矢印キーはプロジェクトウィンドウにおけるズームをコントロールします。
- "DSP Edit/Assign" セクションの "Scroll" コントロールを使用して、1つのパラメータグループのページをスクロールできます。
- "DSP Edit/Assign" セクションの "Compare" ボタンはページを進めます。  
"Keyboard Shortcuts" セクションの "Shift" ボタンを押しながら "Compare" ボタンを押すと、最後のページにジャンプします。
- "DSP Edit/Assign" セクションの "Bypass" ボタンを押すと、ページが戻ります。  
"Keyboard Shortcuts" セクションの "Shift" ボタンを押しながら "Bypass" ボタンを押すと、最初のページにジャンプします。
- "DSP Edit/Assign" セクションの "Insert/Param" ボタンは、下の列の有効パラメータの名称を表示 / 非表示に切り換えます。

F1 ボタン：選択チャンネル：EQ

- Page 1 - "lo" バンドの "Gain"、"Frequency"、"Q" と "Enable"
- Page 2 - "lo mid" バンドの "Gain"、"Frequency"、"Q" と "Enable"
- Page 3 - "hi mid" バンドの "Gain"、"Frequency"、"Q" と "Enable"
- Page 4 - "hi" バンドの "Gain"、"Frequency"、"Q" と "Enable"
- ダイアル上のボタン：EQ のパイパス

F2 ボタン：選択チャンネル：センド

- Pages 1 から 8 - センド 1 から 8 の "Level"、"Enable"、"Pre/Post" とパス
- ダイアル上のボタン：センドのパイパス

F3 ボタン：選択チャンネル：ルーティング

- Page 1 - 出力バス、モニター、入力バス、インプットゲイン
- Page 2 - インプットフェーズ
- ダイアル上のボタン：モニター
- F4 ボタン：選択チャンネル：インサート
- F5 ボタン：センドエフェクト（グローバルモード）
- F6 ボタン：マスターエフェクト（グローバルモード）
- F7 ボタン：インストゥルメント（グローバルモード）
- **"Locate/Numerics" ボタンを使用してプロジェクトカーソルの位置を設定できます。**
- 数値を入力すると、Mackie HUI のタイムディスプレイに表示されていたプロジェクトカーソルの位置が新たな値と入れ替わります。
- 新たな値の入力に小数点やコロンやセミコロンなどは必要はありません。
- "CLR" ボタンで最後の数値を削除できます。"Keyboard Shortcuts" セクションの "Shift" ボタンを押しながら "CLR" ボタンを押すと、新たな値を削除します。
- "Enter" ボタンを押すと、プロジェクトカーソルは新たな値にセットされます。
- "+" と "-" ボタンを利用して、入力した値だけプロジェクトカーソルを進める、または戻すことができます。
- タイムディスプレイ左の 3 つの LED は、小節と拍 ("BEATS")、フレームをベースとするタイムコード ("TIME CODE")、サンプル数 (LED の点灯なし) の内、どれが選択されているのかを示しています。

## Tascam US-428

### 仕様

US-428 は、最高 64 の VST ミキサーチャンネルをリモートコントロールできます。

- **"デバイス設定 (Device Setup)" ダイアログに "Tascam US-428" デバイスを追加すると、リモートステータスウィンドウが現れます。**

現在リモートデバイスでコントロールされているバンク（Cubase LE の 8 つのチャンネルからなるグループ）を示します。他のバンクを選択するには、ウィンドウのポップアップメニュー、あるいはリモートデバイス上の "Bank Left" / "Bank Right" ボタンを使用します。

- **US-428 の各トランスポートキーは、Cubase LE のトランスポート機能に対応します。**
- マーカーを設定するには、[Set] + [Locator] キーを押します。
- [Null] ファンクションキーを押しながらフェーダーを動かすと、フェーダー上の [Select]、および "Rec" インジケータに、フェーダーのポジションが、Cubase LE の現在のフェーダーレベルを上回っているか、下回っているかが示されます。

上のインジケータが点灯すると、パネル上のフェーダーポジションは Cubase LE のフェーダーレベルを上回っていることを、下のインジケータが点灯していれば、その逆であることを示します。インジケータが 2 つとも消えているときは、そのチャンネルのフェーダーポジションは Cubase LE のそれと一致しています。

- ⚠ **US-428 は、「MIDI フィードバック」をサポートしているので、「ミュート (Mute) / "ソロ (Solo)" の区別、チャンネルの選択状況、EQ バンド、Aux1-4、トランスポートの現在状況 (ステータス) を、US-428 のパネル上に表示させることができます。これら（およびフェーダーポジションの表示）を使えるようにするには、Cubase LE と US-428 の間で、双方向による MIDI 接続が必要です。**

### 対応する Cubase LE ミキサーのパラメータ

US-428 の以下の各コントロールは、VST ミキサーの各チャンネルストリップに対するパラメータをリモートコントロールします。

- **Fader** : ボリューム
- **Solo / Mute** : ソロ / ミュート ("Solo" スイッチを使って選択)
- **Select** : 編集するチャンネルの選択
- **Pan-Dial** : パン
- **EQ-Gain**

"Low"、"LoMid"、"HiMid"、"High" ボタンで選択された各バンドに対して、EQ のゲイン (Gain) を制御します。これらは、Cubase LE の 4 つの EQ バンドに、左端から順に対応します。

- **EQ-Freq**  
"Low"、"LoMid"、"HiMid"、"High" ボタンで選択された各バンドに対して、EQの周波数 (Freq.) を制御します。これらは、Cubase LEの4つのEQバンドに、左端から順に対応します。
- **EQ-Q**  
"Low"、"LoMid"、"HiMid"、"High" ボタンで選択された各バンドに対して、EQの"Q"値を制御します。これらは、Cubase LEの4つのEQバンドに、左端から順に対応します。
- **Aux1-4、およびシャトルホイール**  
"センド (Send)"1-4に対するエフェクトセンドレベル
- **Aux Send ボタンが選択されていない場合、シャトルホイールは「ポジションシャトル」として動作します。**  
オンになっているボタンを押して、選択を解除します。
- **"Asgn" ボタンを押しながら "Low"、"LoMid"、"HiMid"、"High EQ" の各ボタンを押すと、対応するEQバンドの "オン (Enable)" ボタンステータスを切り替えます。**
- **"Asgn" ボタンを押しながら "Aux1-4" のボタンを押すと、対応するエフェクトセンド1～4の "オン (Enable)" ボタンステータスを切り替えます。**

## Yamaha 01V

### 仕様

Yamaha 01Vは、Cubase LE ミキサーをリモートできます。リモートによる操作を開始する前に、01Vを次のようにセットアップしておく必要があります。

- MIDIパラメータの"Change"と"Receive"を使用可能にします。
- MIDIコントロールの"Change"と"Receive"を使用不可にします。
- "Device ID / MIDI Channel Receive"は"1"に設定します。
- "Local Control"を"Off"にします。  
"Local Control : Off"が選択されると、ミキサーのリモートが使用可能になります。

01VによるCubase LE ミキサーのリモートはきわめて単純で、(ほとんど)全てのVSTパラメータに対して、01Vのミキサーにも同じようなパラメータコントローラが存在します。モーターフェーダー、インジケーターなどを使って、リモート可能な全てのパラメータの現在状況(ステータス)が、01Vにフィードバックされてパネルに表示されます。この機能を使えるようにするには、01VとCubase LEの間で、双方向によるMIDI接続が必要です。

32のチャンネルに対するリモートを可能にするために、2つの独立したコントロール「レイアウト」が使われていて、それぞれが16チャンネルずつ、VSTチャンネルをリモートする仕組みになっています。01Vの"Memory"ボタンを使って、VSTのレイアウト1とレイアウト2の切り替えを行います。ページ1=VSTレイアウト1、ページ2=VSTレイアウト2と、それぞれ対応します。

ミキサーのチャンネル1～32に対して、リモート可能なパラメータは以下のとおりです。

 **01Vのパラメータの値の範囲が、対応するパラメータの範囲と一致しない場合もあります。**

- **フェーダーレベル、ミュート、パン**  
これらのパラメータに対する01Vのリモートが、Cubase LEの対応するパラメータをリモートします。
- **"センド (Sends)"1-6**  
01VのAux 1-4は"センド (Send)"1-4を、01VのEffect 1-2は"センド (Send)"5-6をリモートします。
- **EQ : "周波数 (Freq.)"、"ゲイン (Gain)"、"Q (Quality)" (4バンド)**  
これらのパラメータに対する01Vのリモートが、Cubase LEの対応するパラメータをリモートします。
- **Stereo Master**  
これらのパラメータに対する01Vのリモートが、Cubase LEの対応するパラメータをリモートします。
- **"センドレベル (Send Level)"1-4は01VのAux Master 1-4で、"センドレベル (Send Level)"5-6は01VのEffect Master 1-2でリモートされます。**

レイアウト1では、01Vは以下のVSTチャンネルをコントロールします。

- チャンネル1～12、13 / 14、15 / 16が、チャンネル1～14をコントロールします。
- 01VのReturn 1 / 2が、チャンネル15 / 16をコントロールします。

レイアウト2では、01Vは以下のチャンネルをコントロールします。

- チャンネル1～12、13 / 14、15 / 16が、チャンネル17～30をコントロールします。
- 01VのReturn 1 / 2が、チャンネル31 / 32をコントロールします。

## Yamaha DM2000/DM 2000v2

Yamaha DM2000は、事実上全てのコンソールパラメータのオートメーションにフル対応したデジタルミキシングコンソールです。Cubase LEなどのデジタルオーディオワークステーションと融合して劇的な効果を発揮できるような設計になっています。

- その機能やパラメータの詳細に関しては、Yamaha DM2000 付属の説明書をご覧ください。

## Yamaha DM1000

Yamaha DM1000 は、事実上全てのコンソールパラメータのオートメーションにフル対応したデジタルミキシングコンソールです。Cubase などのデジタルオーディオワークステーションと融合して劇的な効果を発揮できるような設計になっています。

- その機能やパラメータの詳細に関しては、Yamaha DM1000 付属の説明書をご覧ください。

## Yamaha 01v96v2

Yamaha 01V96V2 は、事実上全てのコンソールパラメータのオートメーションにフル対応したデジタルミキシングコンソールです。Cubase などのデジタルオーディオワークステーションと融合して劇的な効果を発揮できるような設計になっています。

- その機能やパラメータの詳細に関しては、Yamaha 01v96v2 付属の説明書をご覧ください。

## Yamaha 02r96v2

Yamaha 02R96V2 は、事実上全てのコンソールパラメータのオートメーションにフル対応したデジタルミキシングコンソールです。Cubase などのデジタルオーディオワークステーションと融合して劇的な効果を発揮できるような設計になっています。

- その機能やパラメータの詳細に関しては、Yamaha 02r96v2 付属の説明書をご覧ください。

## Yamaha 01x

Yamaha 01X は、事実上全てのコンソールパラメータのオートメーションにフル対応したデジタルミキシングコンソールです。Cubase などのデジタルオーディオワークステーションと融合して劇的な効果を発揮できるような設計になっています。

- その機能やパラメータの詳細に関しては、Yamaha 01x 付属の説明書をご覧ください。

## 索 引

## G

Generic Remote デバイス [8](#)

## H

Houston [10](#)

## M

Mackie Control [10](#)

Mackie HUI [10](#)

## T

Tascam US-428 [12](#)

## Y

Yamaha 01V [13](#)

Yamaha 01v96v2 [14](#)

Yamaha 01x [14](#)

Yamaha 02r96v2 [14](#)

Yamaha DM1000 [14](#)

Yamaha DM2000/DM2000v2 [13](#)

## リ

リモート コントロール

オートメーションを書き込む [7](#)

キー コマンド [7](#)

設定 [6](#)